

平成29年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

⑨課題:丹波大納言の機械化体系栽培における大粒安定多収栽培技術の確立
～小豆の省力多収栽培体系の確立を目指して～

代表者:京都府農林水産技術センター農林センター 作物部長 蘆田哲也

目的

機械化体系栽培における小豆の大粒安定生産技術の確立・普及を図るため、狭畦密植栽培における機械除草機の適用技術の検討を行うとともに、水田転換畑における効果的な排水対策技術を検討する。

成果

①狭畦密植栽培における機械除草機の適用技術の検討

・機械除草(カルチ作業)無しに比べカルチ作業の回数が多い区ほど、雑草発生本数が少なくなった。また、機械除草(カルチ作業)の回数による精子実重や粒度分布には有意差は認められなかももの、作業回数が多いほど、収量が少なく、小粒傾向となった。

②水田転換畑における効果的な排水対策技術の検討

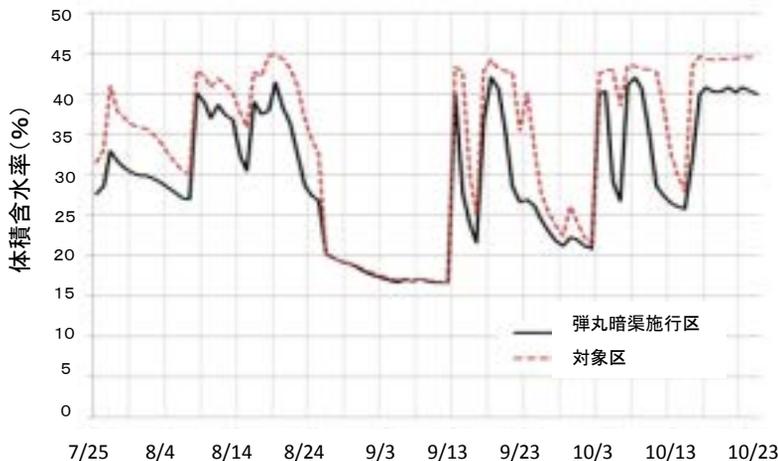
・籾殻充填弾丸暗渠の施工は、ほ場の排水性の改善に有効であった。しかし、土壌の乾燥程度が強く、着莢数が減少するとともに、登熟期間の短縮により小粒化した。

参考データ

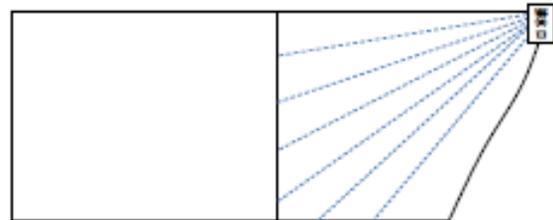
機械除草作業



栽培期間中の土壌体積含水率の推移



弾丸暗渠の配置



弾丸暗渠区と対照区の小豆生育状況



対照区

弾丸暗渠区

(弾丸暗渠区のほうが生育が進んでいる。)